

9月20日、農林畜産食品部は、台風17号北上によるアフリカ豚コレラ防疫管理の強化と題する報道資料を発出したところ概要以下のとおり。

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE88JTJGYmJzJTJGbwWFmc mElMkY20CUyRjMyMTM30SUyRmFydGNsVmIldy5kbyUzRg%3D%3D>

【見出し】

台風「ターファー」北上によるアフリカ豚コレラ防疫管理の強化

【本文】

農林畜産食品部(長官:キム・ヒョンス、以下「農食品部」)は17号台風「ターファー」が韓国に向かって北上することで風と雨によるアフリカ豚コレラ(以下「ASF」)防疫の脆弱要因を事前に確認して、台風の前後に分けて防疫措置を取る予定だと明らかにした。農食品部は、台風の移動経路を考慮すると全国が台風の影響圏に入ると見て、自治体と農家に風と雨による防疫脆弱要因を事前に先制的に管理し、台風が過ぎ去った後、事後措置を徹底的に推進するようにした。

まず、大雨で農場への進入口、農場や畜舎周辺などに散布されている生石灰が洗い流され、消毒効果が低下し、一部の埋却地から浸出水が流出する恐れがあることを勘案し、事前に生石灰など消毒薬品を十分に準備するようにし、台風が通り過ぎる間は畜舎内部を集中的に消毒するようにした。

埋却地の場合、流失の有無を排水路の整備状態及び土壌亀裂の有無などをもう一度確認するようにし、ビニールなどを通じて降雨被害を最小化することを強調した。

また、今回の台風は韓国に近付き、最大風速と強風半径が共に中型級の台風で大きく強まる可能性があるため、畜舎の屋根が剥がれたり、農場周辺の垣根破損など施設の毀損が懸念されている。

このため、風に飛ばされやすい装備は室内に移動させ、屋根と垣根などは縛り付けたり地面にしっかり固定して強風による被害を防ぐように措置した。

台風の後には、農場への進上路と農場周辺に生石灰を十分に再散布し、畜舎の内外部と農場内に保管している農機具、車両などを集中的に消毒する予定である。

また強風で倒れたり、毀損された垣根、畜舎の屋根・壁、埋却地などの被害状況を把握し、緊急的に復旧措置を取る計画である。

農食品部は、一部地域で多くの降雨が予想されるなど防疫管理が脆弱になる恐れがあるため、農家単位の徹底した遮断防疫と先制的措置がいつになく重要であることを強調した。

(以上)